



1938年4月の天象

春の星空。 陽春を代表する星座は何と云つても“おほくま”と“しし”である。夕の中天に高くこの二星座がうかぶ頃になると頑固な冬の冷たさも去つて、われわれの周囲には暖い喜びと希望が甦つてくる。

幼児のやうな無邪氣な表情で闊歩する“おほくま”，口をあき前足をちぢめて今にも“かに”にとびかゝらうとする“しし”，南天に長々とのびて無雑作に泳いでゐる“ヒドラ”，この三大星座の間に“れうけん”“かに”“こじし”，“かみのけ”“六分儀”“コツプ”“からす”等の小さい星座が姿を見せてゐる。

“おほくま”“れうけん”“かみのけ”の部分には星團や星霧が極めて多い。“おほくま”の β の南東にある M97 (梟形の星霧として有名)，“れうけん”の α と“まきを”の α の間にある M3 (球状星團)等，よく知られてゐるものも多い。そのほか，“かに”の中央にある“プレセペ”星團や，“ヒドラ”座 μ 星の南にある遊星狀星霧，“からす”座 β 星の南方の球状星團 M68 等，小望鏡遠の目的となるものはあちこちに存在する。

“しし”座の南部を過る黄道に沿つて運行する海王星は，實に大正12年の7月に“かに”座よりこの星座に移つたもので，以來約15年，漸く現在の位置にまでたどりついたといふ落着きぶりである。一年間の進度が時角で約10分ではそれも仕方がないわけだ。

“かみのけ”座には銀河座標の北極があることも忘れてはなるまい。

變光星。 “てんびん”座 δ 星(アルゴル型)もいよいよ觀測季に入つた。今月12回の極小のうち，6日の3時，27日の1時半の2回だけが好都合である。

ミラ型長週期のものではヘルクレス座 S 星 (α 星と ω 星との中間にあり極

大光度7.5)やヒドラ星V星(♓の南方、極大光度6.6), 曉天にまはると“へびつかひ”座V星, “いて”座RV星等が4月に極大光度に達する筈である。

彗 星. 今年の最も有望な週期星であるゲール彗星はこの月中旬に接近すると計算されてゐるが、その週期が精密に確定しないため相當の誤差があるものと思はれる。多くの人々の協力によつて“へびつかひ”“いて”のあたりがかなり廣範圍に(南緯10—20度の幅を)搜索されなければならない。

流 星. 4月には有名な“こと”座流星群がある。これは中旬から下旬にかけて現はれ、20—22日頃極大となる。

そのほかに、やはり中旬より下旬に“をとめ”座を輻射點とする一群が見られる。

海王星. “しし”座の南部にあつて光度7.7。觀測季にある。(前號の經路圖を参照されたし)

天王星. 今日は太陽に近くてだめ。

土 星. 曉天にまはつたが、まだ太陽に近い。

木 星. “やぎ”座 δ 星の北を順行中で曉天に負1.7等の姿を現はす。視半徑は約17秒。

なほ、この月は22日の曉に木星の第一衛星イオが第三衛星ガニメドを食するといふ珍現象が起る。豫定時刻は下の通りである。

半影に入るのが 3時8分、本影に入るのが同10分、

本影を出るのが同12分、半影を出るのが同15分。

火 星. “ひつじ”座から“うし”座の中央にまで進む。光度約2等。後から太陽が徐々にせまつて來て當分は時季外れ。

金 星. “うを”座より“うし”座へ急速に火星を追つてゐる。宵の明星として光度負3.4等。

水 星. “ひつじ”座に入り12日に停留となり以後再び“うを”座へ逆行して22日には太陽を迎へ(内合)曉天に移る。光度は0等より下旬には3等に激減する。前月末から下旬にかけて僅かの間しか見られないから、いつもながらあはただしい。2日には鎌のやうな細い月に極く接近する。

小遊星ジュノ. 來る5月31日に“へびつかひ”座 ζ 星の北方で對衝(光度10.0)と

なる。豫報位置は(毎日9時の値),

三月19日	赤經16時57分4	赤緯—9度 6分	光度10.5
23	16 58.6	8 49	10.5
27	16 59.5	8 31	10.4
31	17 0.1	8 12	10.4
四月 4日	17 0.4	7 53	10.4
8	17 0.3	7 33	10.3
12	16 59.9	7 12	10.3
16	16 59.1	6 51	10.2
20	16 58.0	6 30	10.2
24	16 56.5	6 9	10.2
28	16 54.8	5 49	10.1
五月 2日	16 52.7	5 28	10.1
6	16 50.3	5 9	10.1
10	16 47.7	4 50	10.0
14	16 44.9	4 32	10.0
18	16 41.8	4 15	10.0
22	16 38.7	4 0	10.0
26	16 35.4	3 47	10.0
30	16 32.0	—3 35	10.0

小遊星ヴェスタ。5月22日に“てんびん”座の星の近くで對衝(光度5.9)となる。

豫報位置は(毎日9時の値),

三月 3日	赤經16時 2分1	赤緯—12度16分	光度6.9
11	16 9.9	12 20	6.8
19	16 16.2	12 19	6.6
27	16 20.8	12 13	6.5
四月 4日	16 23.4	12 3	6.4
12	16 24.0	11 50	6.3
20	16 22.5	11 36	6.2
28	16 18.9	—11 23	6.1

太 陽。“うを”座より“ひつじ”座に進み、漸く春らしくなつて來た。

月。1日の新月(舊3月), 8日の上弦, 15日の満月, 23日の下弦を経て30日に再び新月(舊4月)となる。

(この記事を書いてゐる今日2月14日は朝から珍しく風雨が強く、そのうへ雷の走りに驚かされ、妙な空工合の日であつた。)